



第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師／佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師／久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師／鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師／清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師／竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師／木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師／荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力／「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師／松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」／長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師／松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師／浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか？ 平成20年7月14日
講師／角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師／針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師／水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロ ---- 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師／バドウ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師／町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師／中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践 --- 宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる--- 平成21年6月3日
講師／塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師／小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化 ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師／宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく！ 平成21年11月24日
講師／志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしょ/代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師／薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師／石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師／新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師／越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J 〜"J"を長野に--- いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師／鈴木政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師／千村尚司さん 千村ブレイン代表 ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師／川崎史郎さん フリーライター 市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師／安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日
講師／マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師／井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

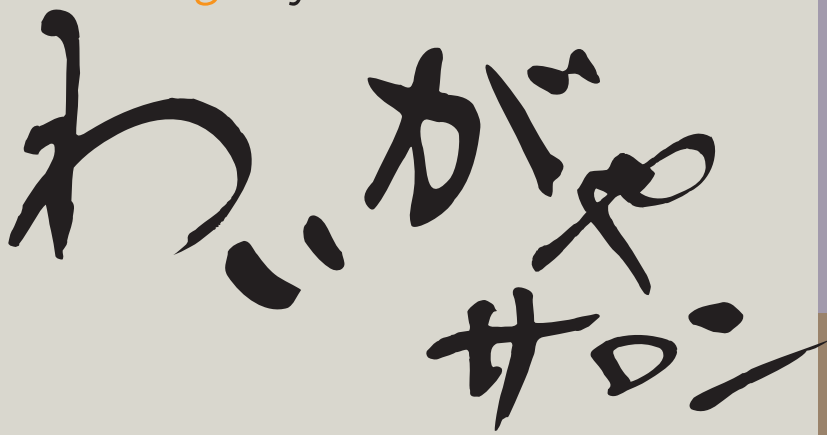
第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師／田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師／飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営



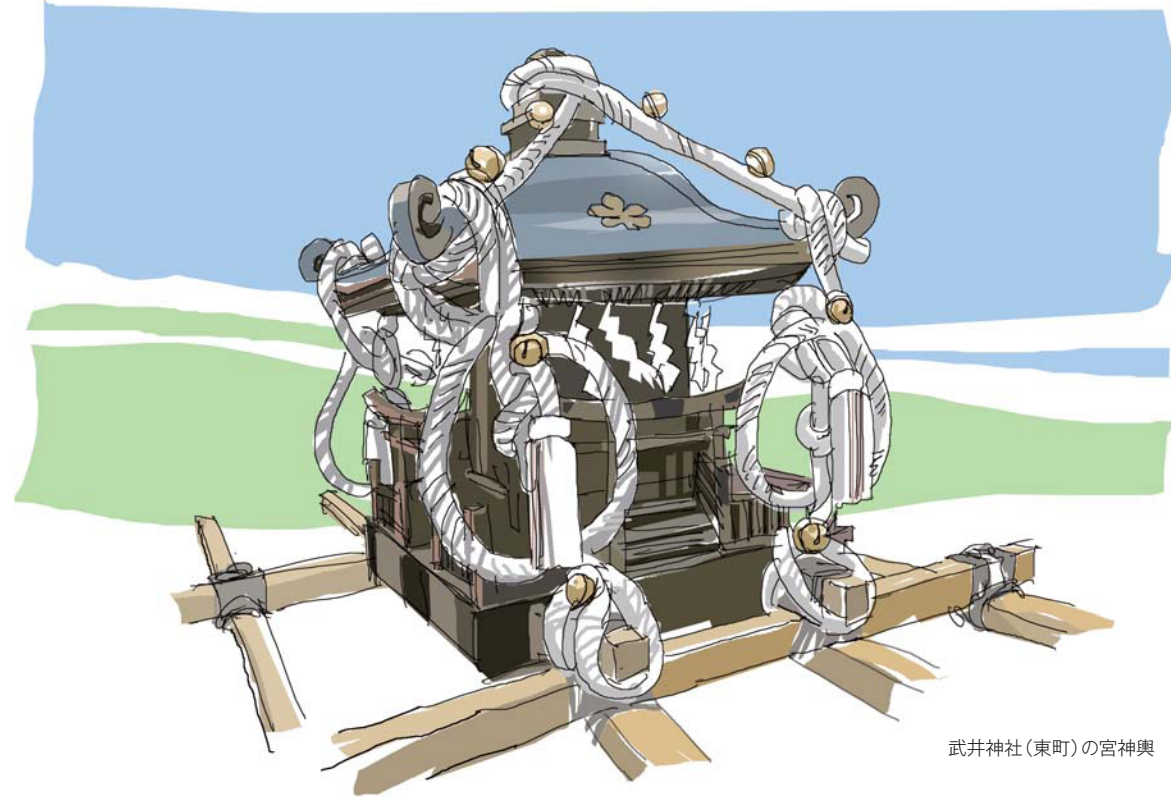
NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 34
2012.3



武井神社(東町)の宮神輿

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ

平成24年2月28日(火) 18:00~20:00

講師／相原 哲さん まち みこし たけむつみ かいがしら
ながの町神輿連合会武睦会 会頭

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

ここ数年、市内各地で、威勢よく神輿をかつぐ人々の姿を目にする機会が増えてきたのをご存知でしょうか？ 神輿は祭りの華。担ぐ人も見る人も笑顔、歓声、熱くなります。観光を主テーマにおく本年2回目のわいがやサロンのゲストは町神輿復興の仕掛け人ともいうべき、ながの町神輿連合会武睦会 会頭の相原哲さんをお迎えしてお話をうかがいました。

さんちよう 三町神輿会

—— 相原さんがお神輿にのめりこむようになったきっかけがありますか？

学校を出て東京で仕事に就いたんですが、三ノ輪(荒川区)の米屋の旦那が私を見込んでくれて町神輿を担がしてくれたんです。でも、婿にされそうになったんで、長野・東鶴賀に帰ってきた。東鶴賀は江戸時代に権堂にあった水茶屋が移ってできた鶴賀新地の東側で、大正時代に東京本場から手ほどきを受けたという木遣唄や粋な感じが残っている町。青年部に入って祭りや何やら、先輩の使い走りをしたり、少年野球にも首を突っ込んでました。そんなとき、隣町・柳町が助成金を使って大人神輿と子供神輿を作るという。で、野球を通じて柳町・田町・東鶴賀のお父さんたちとしょっちゅう神輿の話をしていましたから、「子どもたちに『大きくなったら、あんなふうに大人神輿を担ぎたい』と思わせたい!」と意気投合。「三町神輿会を作って合同で神輿を担ごう」、そうすればお互いの担ぎ手不足も解消だ、ということになったんです(平成13年)。

武睦会

—— 三町神輿会が武睦会に発展していったわけですか？

ええ。でも徐々に、徐々にです。
お神輿とは神様の乗り物のこと。お祭りでもお神輿が出るのは、その年の収穫の報告と来年の五穀豊穡を地元の氏神様に祈りする秋祭りなわけですが、宵祭りに、今年の町内はこうだったと、輿に乗せた神様に町内をくまなくお見せする(町内渡御)。実際、市内の町でも昭和40年ごろまでは大人神輿を賑やかにワッショイワッショイやっていたが、若い担ぎ手が少なくなつて、やめてしまったところもあったんです。
長野の町神輿を復活させたい気持ちから、ほかの町会に一人でお邪魔しては、その町のお神輿のことをお聞きしてまわっているうちに、賛同してくれる人たちが増えていったんですね。
あるとき、そんな僕らに武井神社の斎藤宮司さんが「蔵にしまわれたままになっている宮神輿がある」と言ってきてくださった。大き過ぎて何十年も巡行されていないらしい。それを耳にして僕ら(町の粋を超えた集まり)に、その大きな神輿を担ぎたいとい



あいはら さとし 1948年、松代町(現長野市)に生まれ、その後、東鶴賀町に移る。東京で就職後、帰長し、家業の菓子原材料卸業を継ぐ。東鶴賀町区 神社総代

う目標が出来たんです。担ぎ棒は静々巡行用の二点棒(2本の桁)だったのを、賑やかに担げる江戸前風の縦棒4本にしたい。市の間伐事業に立ち合って山から木を伐り出し、乾燥させ……この写真はきれいになった神輿と担ぎ棒のお披露目です。飾り紐も新調しました(表紙イラスト)。

各町の神輿を復活させようという活動と並行して、いろいろ勉強させてもらっているうちに権堂の秋葉神社も東鶴賀の三神社も武井神社の氏子社(東町が宮元)であることがわかった(図)。僕は武井神社の氏子同士だという意識が芽生え、その大元である武井神社に人が多く集まってほしいという大目標も生まれました(妻科神社や湯福神社のお祭りはくやしいくらい人が集まっていたので)。武井神社の氏子町神輿会が仲良く力をあわせていこうという名の「武睦会」を考え、設立準備会を発足させました(平成20年)。

—— 武睦会年表を見させていただくと、翌年から華々しい活動ぶりですね。

平成21年がちょうど善光寺の御開帳だったんです。相ノ木西の町会(美和神社の氏子町)から善光寺御開帳に神輿を奉納したいという提案が出まして、何と町神輿を奉納することに。となると何としても担ぎ手を集めようというので員数集めに走り回りました。神輿にもありますが、一基に交代要員含めて70~80人必要なので心配したけれども300人も集まってくれた。

実は前段階として、返目の勤め人が生前趣味で造っていた神輿を外に出すには家を壊さないといけないとなって、故人の意志を継ぎたいと相ノ木西町神輿連が奮起したことが始まりです。余りにも大きく担ぎ手不足に困っていた相ノ木西町神輿連を僕ら仲間28人と大勢の信大生も巻き込んでお手伝いしたことがあったんです(平成18年/この神輿が相ノ木西町の氏神様・飯縄天神(美和神社)の神輿に)。で、相ノ木西町の神輿と武井神社の宮神輿、それと田町の田面神社の神輿の3基奉納となったわけです。善光寺の境内に初めて町神輿が入ったんですから、そりゃ嬉しかったですね。

同年9月の水内神社でお手伝いした神輿渡御は80年ぶりのこと。皆が喜んでくれるから僕らも嬉しくてね。10月には表参道秋祭り。そして翌年の平成22年に「ながの町神輿連合会武睦会」正式設立と相成り、念願の武井神社の御射山祭を神輿で盛り上げることが出来たんです。

神輿で味わう一体感、達成感

—— 神輿を担ぐ魅力とは？

一体感ですかね。重たいのにそれがワッショイワッショイ、声がけしていると、ふと軽くなる一瞬がある。そうするとスローモーションのように、うまく進み出す。一度それを経験するとねー、もうたまりません。汗びっしょりだけど、嬉しいから疲れない。

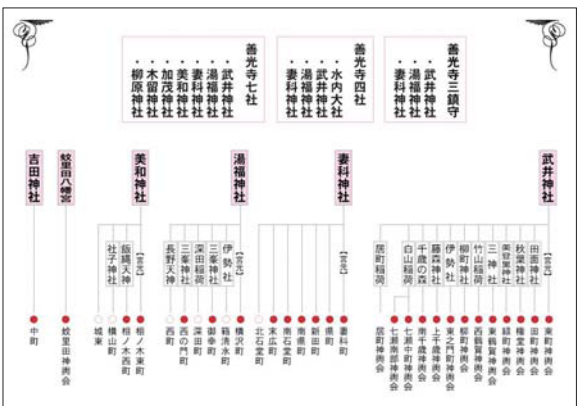
直会(なおりい)や忘年会で見せてくれる顔の晴れ晴れしさ。年の差も役も関係なく、皆でやれば出来るんだな、という達成感。神輿を担ぐときには、何をおいても駆けつけるって言ってくれる若い人が生まれています。

—— 老若男女が心から楽しんでいる祭りが見られる町は観光客にとっても魅力ですよ。ありがとうございました。

子どもたちに「大きくなったら(地元の)大人神輿を担ぎたい」と思わせられること、の言葉をかえれば、なりたい大人を子どもに見せること。その姿だけでなく過程そのものが、町々、ひいては長野市を次代へつなげることに教えられた夜でした。相原さんは盛んに「何の得にもならないのにね」と仰っていましたが。



武睦会の面々



旧長野市内の主なる神社と、その氏子町および町神輿会の図。
下段・赤い丸が現在神輿を出せるようになった町会。白丸は神輿はあるが…という町。武睦会は、どこにでも助っ人にとんでいく



左:板についた紬の祭り半纏姿でおいでくださった相原さん。右:進行役・鈴木理事も法被とねじり手ぬぐいをお借りしました